

社会福祉法人 聖マリア会

令和3年度 事業報告書

事業の実施状況

新型コロナウイルス感染症の感染拡大とその長期化により広く国民生活に大きな影響を与え続けています。また、社会、経済活動は大きく制約されるなか、感染状況は刻々と変化し収束の目途が全く立たないのが現状です。このような厳しい経済情勢のなか令和3（2021）年度介護報酬改定は、2021年9月末までの特別な対応（コロナ禍対策）を含め0.7%のプラス改定となりました。

また、改定にあたっては、「感染症や災害への対応力強化」、「地域包括ケアシステムの推進」、「自立支援・重度化防止の取組の推進」、「介護人材の確保・介護現場の革新」、「制度の安定性・持続可能性の確保」等の視点を踏まえ運営基準や単位数、要件等について見直されました。

特に、厚生労働省は、令和3年度から全国の介護施設からの情報をデータベースに集約する科学的介護情報システム「LIFE（ライフ）」の運用を開始しました。どんな状態の人に、どのような介護を提供すれば自立支援や重度化防止に効果的なのかを客観的データで示し介護サービスの改善につなげるのを目的としています。

当法人では、LIFEへのユーザー登録をし、本年度は栄養マネジメント強化加算を算定（約220万円）しました。次年度以降LIFEに関連した加算が算定できる取り組みを順次進めていきます。

また、「令和3年度愛媛県介護ロボット導入支援事業」の補助を受け見守り機器導入とそれに伴う通信環境整備（総事業費約860万円内県補助金約498万円）を行いました。

次年度以降もICT（情報通信技術）機器を導入し、介護現場での介護職員の負担軽減と職場環境を改善し、離職防止や職場定着を図っていきます。

このような中、当法人の令和3年度の決算は、約1,220万円の赤字決算となっておりますが、築23年を経過した施設整備、設備整備として給湯器マルチシステム設備工事及び井水切替工事（1,661万円）、デイサービスの介護用シャワー入浴装置設置工事（約355万円）等の整備を行い利用者の生活環境の改善に努めました。

コロナ禍における高齢者福祉・介護事業の経営環境や人材不足はますます厳しさを増していますが、利用者サービスの一層の向上を図るべく各事業に取り組んでまいりましたので、その概要を次のとおり報告いたします。

1. 法人の概要

1. 法人名 社会福祉法人 聖マリア会
2. 所在地 愛媛県今治市上徳甲110番地1
3. 法人の事業
 - (1) 第一種社会福祉事業
 - (イ) 特別養護老人ホームの経営
 - (ロ) 軽費老人ホームの経営
 - (2) 第二種社会福祉事業
 - (イ) 老人デイサービス事業の経営
 - (ロ) 老人短期入所事業の経営

2. 役員等の状況

1. 構成（令和4年3月31日現在）

理事	定数	6名以上11名以内（現員10名）
監事	定数	2名以内（現員2名）
評議員	定数	7名以上12名以内（現員10名）

3. 令和3年度理事会開催状況

開催年月日 出席人数	議案
令和3年度第1回理事会 （理事会決議の省略） 決議事項の提案をした理事 理事長 木原 晃 理事会の決議があったもの とみなされた日 令和3年 6月 5日(土) 議決に加わることのできる 理事総数 理事 10名	第1号議案 社会福祉法人聖マリア会令和2年度事業報告について 第2号議案 社会福祉法人聖マリア会令和2年度決算について 第3号議案 社会福祉法人聖マリア会定款施行細則の一部改正について 第4号議案 社会福祉法人聖マリア会役員及び評議員の報酬等に関する規程の一部改正について 第5号議案 社会福祉法人聖マリア会職員給与規程の一部改正について 第6号議案 社会福祉法人聖マリア会育児休業等に関する規則の一部改正について 第7号議案 社会福祉法人聖マリア会理事及び監事候補者の推薦について 第8号議案 社会福祉法人聖マリア会定時評議員会への提案について（評議員会の決議の省略及び報告の省略により行うことを各評議員に提案するもの） ①報告事項1 専決事項報告書（書面報告）
令和3年度第2回理事会 （理事会決議の省略） 決議事項の提案をした理事 理事 重見 憲史 理事会の決議があったもの とみなされた日 令和3年 6月 18日(金) 議決に加わることのできる 理事総数 理事 10名	第1号議案 社会福祉法人聖マリア会理事長の選任について

開催年月日 出席人数	議案
令和3年度第3回理事会 (理事会決議の省略) 決議事項の提案をした理事 理事長 木原 晃 理事会の決議があったもの とみなされた日 令和4年 3月23日(水) 議決に加わることのできる 理事総数 理事 10名	第1号議案 社会福祉法人聖マリア会令和3年度補正予算について 第2号議案 社会福祉法人聖マリア会令和4年度事業計画について 第3号議案 社会福祉法人聖マリア会令和4年度予算について 第4号議案 社会福祉法人聖マリア会定款施行細則の一部改正について 第5号議案 社会福祉法人聖マリア会職員就業規則の一部改正について 第6号議案 社会福祉法人聖マリア会嘱託職員就業規則の一部改正について 第7号議案 社会福祉法人聖マリア会職員給与規程の一部改正について 第8号議案 デイサービスセンターみどりの郷(地域密着型通所介護)運営規程の一部改正について 第9号議案 デイサービスセンターみどりの郷(通所型サービス)運営規程の一部改正について 第10号議案 社会福祉法人聖マリア会評議員選任・解任委員会に提案する評議員の欠員に伴う「次期評議員候補者」の推薦について 第11号議案 社会福祉法人聖マリア会敷地内用地買収について ①報告事項1 専決事項報告書(書面報告) ②報告事項2 監査報告(書面報告) ③報告事項3 デイサービスセンターみどりの郷(介護予防)認知症対応型通所介護の休止について

4. 令和3年度評議員会開催状況

開催年月日 出席人数	議案
令和3年度定時評議員会 (評議員会決議の省略) 決議事項の提案をした理事 理事長 木原 晃 評議員会の決議があったもの とみなされた日 令和3年 6月18日(金) 議決に加わることのできる 評議員総数 評議員 11名	第1号議案 社会福祉法人聖マリア会令和2年度決算について 第2号議案 社会福祉法人聖マリア会役員及び評議員の報酬等に関する規程の一部改正について 第3号議案 社会福祉法人聖マリア会理事及び監事の選任について ①報告第1号 社会福祉法人聖マリア会令和2年度事業報告について

5. 特別養護老人ホームみどりの郷

特別養護老人ホームみどりの郷の令和3年度事業計画は以下のとおりで、それに対する実績、達成度を報告する。(詳細な数字は末尾に表示)

令和3年度稼働目標 稼働率95%に対して92.9%であった。

【原因】

今年度前半、重度化した利用者の体調不良による入退院が多くあった。それに加えて新型コロナウイルスに対応できる環境を強化し、安全安心な生活環境を提供する中で、新規入所獲得及び入所調整に遅れが生じ空床期間が長引くことがあった。

(3) 入所者年齢

	69歳以下	70～79歳	80～89歳	90～99歳	100歳以上	計
男性	0	5	7	2	0	14
女性	2	4	18	19	1	44
計	2	9	25	21	1	58

	最低年齢	最高年齢	平均年齢
男性	71歳	94歳	82.6歳
女性	66歳	103歳	87.3歳
計	66歳	103歳	86.2歳

(4) 年度別利用状況

年度	日数	延利用日数	1日当人員	利用率	備考
3年	365	19,669	53.89	92.9	
2年	365	18,949	51.92	92.1	
元年	366	19,145	52.31	93.4	

(5) 入退所状況（令和3年4月1日～令和4年3月31日）

○ 入所者 20名 入所前居所（自宅10名、老健8名、グループホーム2名）

○ 退所者 19名 退所理由（長期入院14名、死亡5名）

(6) 現入所者の入所年度

21～24年度	26～27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	計
2名	4名	4名	4名	8名	6名	10名	20名	58名

(7) 現入所者の平均在所日数

3年度 989日（2年08月）

2年度 1,310日（3年07月）

元年度 1,305日（3年06月）

(8) 入所者の年間平均介護度

3年度 4.15

2年度 4.23

元年度 4.31

(9) 特例措置による入所状況 なし

(10) 入所待機者 173名（他施設との重複含む）

(11) 入所検討委員会開催

年4回（4月、7月、10月、1月）

6. 短期入所（ショートステイ）事業

ショートステイみどりの郷の令和3年度事業計画は以下のとおりで、それに対する実績、達成度を報告する。（詳細な数字は末尾に表示）

令和3年度稼働目標 稼働目標50%に対して22.7%であった。

【原因】

令和3年2月より、施設入所者が58床となりショートステイとしての月平均利用人数は2～3名の範囲での調整であったが、特養入所者の長期入院のため特養とショートステイ合わせての稼働に関して不十分な結果となった。また新型コロナウイルス流行禍でのショートステイの積極的な受け入れには至らなかった。

【対策】

入所者の健康管理に関しては基本介護の質の低下での入院は減少傾向で、老衰や持病での入院のため、ケアの質は向上しつつある。

今後入所者の健康管理と入院を見越しながらのショートステイの調整と、新型コロナウイルスの対応をしながらの受け入れが必要となる。

強化

① 思いに寄り添った個別ケアを提供

- ・不慣れな環境で安心して生活を送ることができるよう、思いに寄り添った援助で信頼関係を築き、利用者の心身に合った安全で快適な生活を支援する

② 介護事故の予防及び早期対応と再発の防止

- ・介護事故を未然に防止できるよう、個人の心身状態に沿った環境整備とケア援助を行う
- ・介護事故や疾病が発生した場合の早期対応を含めたリスクマネジメントの充実を図る

【実績】

① 利用者及びその家族の意向に沿えるよう柔軟な対応と個別ケアの提供に努めた。また職員の接遇と人間力、各委員会発信での専門性の高い技術と知識を身に付けケアの質の向上に努めた。

② 利用者の安全と過ごしやすい空間に配慮し、ベッド周辺環境と行動面からの予測される事故に関して、利用毎にスタッフ間で申し送りを行い予防に努めた。

また家族に対しても思わぬ事故がありうることを理解して頂き、日頃から情報の共有を行い、信頼関係を築く努力をしている。

発生した事故に関しては上司に相談し、迅速な対応を行い職員間で再発防止に努めた。

継続

- ① ご家族、他機関と情報を共有し、意思や意向に沿った柔軟なサービスの提供
- ② 在宅生活を継続するための身体機能の維持活用

- ③ 不適切ケアを改善し、尊厳のある援助と虐待を発生させない体制
- ④ 災害や感染症対策に強い体制

【実績】

利用者が安心、安全、快適に過ごして頂けるよう職員全員と協力してケアの提供を行った。

(1) 定員 9名 (予防型含む)

(2) 年度別利用状況

年度	日数	実利用人員	延利用日数	1日当人員	利用率	備考
3年度	365	138 (2)	748 (4)	2.05	22.8	1人当平均利用日数 5.42日
2年度	365	128 (0)	907 (0)	2.48	20.1	7.08日
元年度	366	194 (0)	1,225 (0)	3.35	25.7	6.31日

() 内は介護予防分を再掲

(3) 利用者の年間平均介護度

3年度 3.27
2年度 3.67
元年度 3.29

7. 地域密着型通所介護（デイサービス）事業

デイサービスセンターみどりの郷（地域密着型）の令和3年度事業計画は以下のとおりで、それに対しての実績、達成度を報告する。（詳細な数字は末尾に表示）

令和3年度稼働目標 稼働目標 70%に対して 63.7%であった。

【原因】

富田地区では他の事業所が増加したことで徐々に新規利用者の獲得が困難な状況になってきており、また新型コロナウイルスの影響により他施設への訪問が厳しくなる中で、介護支援専門員への空き状況報告や売り込み不足などが原因であると考えている。

また地域住民にサービスを認知してもらう機会を設けていないことも問題であると考え、課題として今後対策を検討していく。

【対策】

過去5年間において地域密着型の延利用者数は最も多く、前年比300人増と稼働目標は達成できていないものの、少しずつ延べ利用者数は増加傾向にある。

令和4年度は認知症対応型を休止し地域密着型のみでスタートすることになるが、利用者に対しては、アンケート調査を実施して散髪希望が多い場合は月2回程度の外部業者による散髪サービスの実施や土曜日の営業実施をアピールポイントに追加し、激戦区でも生き残っていける体制づくりに努めていく。

強化

- ① 他事業所やケアマネージャーとの連携を強化し、利用者増に努める
- ② 日常的に感染症予防対策を徹底し、施設に持ち込まないよう細心の注意を払う
- ③ 利用者の生活歴や現在の状況などのアセスメントを強化し、生きがいを持てるよう支援する
- ④ 利用者主体の支援策を構築し、「できる」を増やして達成感のある利用ができるよう支援する

【実績】

- ① 以前付き合いのあった事業所に積極的にアピールした。
- ② 感染症に対して注意を払った対応ができた。
- ③ アセスメントを強化し、その人の生きがい・やりがい・できること・やりたいことを探し、利用時間内に実践することができるようになった。
- ④ 今後も達成感や楽しみを持てるように支援していく。

継続

- ① 職員個々のレベルアップと職員間の情報共有
- ② 利用者の身体的・精神的特徴を考慮した上での個人の健康状態の把握・対応

【実績】

- ① 日々の業務に追われ、職員間の意思統一や状況判断、理解力にもばらつきが見られ大きなレベルアップに繋がっていないと思われるため、責任ある仕事を任せていく事で更なる飛躍を図りたいと考えている。
- ② バイタルや入浴時の状態観察を徹底することで健康状態を把握し、素早い対応を取ることができた。

8. 認知症対応型通所介護（デイサービス）事業

デイサービスセンターみどりの郷（認知症対応型）の令和3年度事業計画は以下のとおりで、それに対しての実績、達成度を報告する。（詳細な数字は末尾に表示）

令和3年度稼働目標 稼働目標 60%に対して 33.8%であった。

【原因】

4名の利用者の利用中止や入院による長期利用中止などがあった。またその空所を埋めるための居宅介護支援事業所への営業不足が原因であると考えている。

【対策】

地域密着型に集約されるに当たって、見学や体験利用時に契約に結び付くことができるようにサービスや当施設の特徴をアピールしていく。また引き続き居宅介護支援事業所などに営業を行い新規利用者獲得に努めていく。

強 化

- ① 利用者の認知症状、身体状況に応じた日常生活支援のためのサービスの提供
 - ・心身の変化に合わせた個別の援助を提供し、症状の維持向上を図る
 - ・利用者の体力や体調に配慮し、活動と休養のメリハリをつけ、充実した時間を提供する
- ② ご家族や他の介護支援事業者等関係機関との連携強化
 - ・ご家族とのモニタリングを3ヶ月に1回程度行う
 - 定期的なモニタリング及びカンファレンスを行うことで、ご家族の介護負担の軽減やご本人の意欲向上、心身機能の維持向上に努める

【実績】

- ① タオルたたみなどの生活リハビリや棒・ボールを使った手指の運動、歩行練習などが行える利用者には実施し、また利用者間のコミュニケーションや自発的言動を促すことを目的に複数人でカルタや歌に取り組み、これらの取組みが困難な利用者には静養を挟み館内や外を散歩しながら談話して刺激のある充実した時間を過ごせるよう取り組んだ。
- ② 利用者の中には急な認知症の進行や体調不良（体力の低下）が原因で、家族の介護負担が増えたケースもあったが、その都度家族や関係者で介護サービスの利用や追加の検討を行い、利用者が生活しやすい環境づくりや家族の介護負担の軽減に繋がった。

継 続

- ① 利用者が安心してゆったりと過ごせるような環境づくり
- ② 通所介護計画書に沿ったサービスの提供
- ③ 衛生管理の徹底及び新型コロナウイルス等感染症蔓延防止の徹底
- ④ 利用者が心地よい気持ちになれる接遇の徹底
- ⑤ 満足できる食事や楽しく食事できる環境の提供

【実績】

- ① 随時静養できるよう休憩スペースの設置やソファでゆっくり寛ぎながら談話を楽しめるように、家庭に近い環境・雰囲気づくりに努めた。また職員は慌ただしい姿を見せず、利用者が気兼ねなく話し掛けられるような環境づくりにも努めた。
- ② 通所介護計画書に沿って歩行練習や脳のトレーニングなど個別ケアに努め、その結果時間を掛けて利用者を観察することができ、徐々に立位や歩行が困難になってきたり、認知症状に著しく進行が見られたりする等心身の状態の変化を早期に発見することができた。
- ③ 感染症予防として毎日の利用者への呼びかけ、利用前の検温、マスク着用の義務化、うがい・手洗い・手指等の消毒を徹底し、また県内の感染状況等について情報提供を行い予防の意識を高めた。

- ④ これまで学んできた接遇を意識して実践することで、利用者が心地良く過ごすことができ、職員同士の接遇でも不適切にならないよう努めた。
- ⑤ 行事食や特別なおやつを提供した際には、必ず利用者の反応を観察して良かった点や改善点を職員間で話し合い、次に活かすようにした。

- (1) 定員
- ア. 地域密着型 18名
 - イ. 通所型サービス 地域密着型の定員内
 - ウ. 認知症対応型 12名

(2) 営業日・サービス提供時間

- 1週間の営業日数 5日（月～金曜日）
- 1日のサービス提供時間
 - ア. 地域密着型 5～6時間
 - イ. 認知症対応型 7～8時間

(3) 年度別利用状況

区分 年度	(日) 開所日数	地域密着型		通所型サービス		認知症型		計		(人) 1日平均	(%) 利用率
		実人員	延人員	実人員	延人員	実人員	延人員	実人員	延人員		
3年度	256	231	2,449	72	485	93	1,038	396	3,972	15.5	51.7
2年度	256	197	2,125	65	490	118	1,365	380	3,980	15.5	51.8
元年度	256	217	2,070	72	437	119	1,508	408	4,015	15.7	52.3

(4) 利用者の年間平均介護度

区分	地域密着型	認知症対応型
3年度	1.72	3.77
2年度	1.45	3.77
元年度	1.37	3.66

(5) 配食サービス事業

- 今治市よりの受託事業 月～金（昼食）
- 3年度 646食
 - 2年度 650食
 - 元年度 638食

9. ケアハウス事業

ケアハウスせせらぎの令和3年度事業計画は以下のとおりで、それに対しての実績、達成度を報告する。（詳細な数字は末尾に表示）

令和3年度稼働目標 稼働目標80%に対して69.2%であった。

【原因と対策】

令和3年度は1名の新規入所者で、転倒が原因で歩行困難となり退所となった入所者が6名であった。

入所者のADLの低下も顕著で転倒事故が多くあったため、さらなる個々への目配り・気配りを行うことでニーズやトラブルへの対応を速やかかつ適切に対処

できるように努める。

強化

- ① 入所者の心身の状態を把握し、その方に応じたサービスの提案と提供
- ② 入所者の声を傾聴し、施設サービス計画を充実させ、計画に沿った援助を実施する
- ③ 健康状態が損なわれた時に、速やかに関連先と連携し、早期治療ができるよう援助を行う
- ④ 入所者自身が、転倒防止への意識を高められるよう助言と環境整備を行う

【実績】

認知症状の進行が顕著な入所者に対して、ヘルパーやデイサービスとの連携を心掛けた。転倒事故等もあったが、関係先との連携により早期対応ができた。事故後に家族からの苦情等もなかった。

継続

- ① 入所者が居心地よく過ごせるような施設の環境づくりに努める
- ② 感染症予防のため、正確な情報の提供、年間を通じて手洗い・消毒の声掛けを行う
- ③ 接遇力の向上を目指し、入所者や外部事業者との連携を強化する

【実績】

新型コロナウイルス感染予防では、適時外出制限の緩和なども行ってきたが、現時点では感染者はなし。

入所者のADLが低下しており、デイサービスやヘルパーの利用について適時説明し、若干名ではあるがサービスの利用に繋げることができた。

(1) 定員 30名 (1人部屋 22、2人部屋 4)

(2) 入所者 17名 男性 4名 女性 13名
単身者 17名 夫婦 0名

(3) 現入所者の入所年度

10~18年度	25~27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	計
2名	3名	3名	2名	3名	2名	2名	0名	17名

(4) 入所者の年齢

	60~69歳	70~79歳	80~89歳	90歳以上	計
男性	0	1	0	3	4
女性	0	2	6	5	13

	最低年齢	最高年齢	平均年齢
男性	72歳	91歳	85.8歳
女性	77歳	98歳	87.0歳
計	72歳	98歳	86.7歳

(5) 入退所者の状況（令和3年4月1日～令和4年3月31日）

入所者 1名 入所前の居所 （自宅 1名）

退所者 6名 退所理由 （老健 5名、病院 1名）

(6) 現入所者の平均在所日数

3年度 2,117日（5年09月）

2年度 1,905日（5年02月）

元年度 1,727日（4年08月）

(7) 入所者の要介護度状況

未認定者	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
2名	2名	4名	6名	3名	—	—	—	17名